

議題 1. 2018 年度事業報告

I. 総務会

1. 委員

担当理事 河合 富士美（専務理事・聖路加）、城山 泰彦（順大）、児玉 閲（東邦大医）、諏訪部 直子（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 4 月 9 日

第 2 回 6 月 22 日

第 3 回 10 月 26 日

第 4 回 2 月 15 日

2) 第 89 回総会・分科会を 2018 年 5 月 30 日～31 日に日本教育会館（東京都）で開催した。

3) 第 90 回（2019 年度）総会を 2019 年 5 月 28 日に日本教育会館（東京都）にて開催することとし、実行委員会（委員長：城山理事）を立ち上げた。

4) 2018 年度地区会事務局連絡会議を 2018 年 12 月 13 日に開催した。

5) 2018 年度委員長会議を 2019 年 1 月 25 日に開催した。

6) 韓国医学図書館協会秋季学術大会（2018 年 10 月 17 日～20 日）へ尾崎理事と阿部潤也委員長（認定資格運営）を派遣した。

7) 地区会へ理事を派遣した。（2018 年 10 月 26 日東北、11 月 9 日北信越、11 月 15 日中国四国、2019 年 1 月 18 日北海道）

8) 著作権ポリシーについては組織・制度委員会に検討を委託した。

9) 医療健康情報委員会に陪席した。

10) 企画・広報委員会と国立国会図書館を訪問した。

11) 2018 年 5 月 29 日に KMLA とビジネスミーティングを開催した。

12) 奨学基金の使い方と長期財政計画については継続審議とした。

13) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

14) 事務局長として谷澤滋生氏を雇用した。

3. その他

担当委員会のあるものは、当該委員会の事業計画（案）を参照

4. 今後の課題

1) 未着手の重点事業目標の達成。

2) 役員及び委員会の業務負担を軽減する業務精査と事業の見直し。

3) 役員選出方法の検討

5. 事業別報告

1) 医書電子化検討ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 闊 (東邦大医)

委員 岩井 雅史 (信大医) [~9月30日まで]、角谷 永 (慶大医)、
河合 富士美 (聖路加)、田口 宣行 (埼玉大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 4月26日

第2回 9月27日

②日本医書出版協会(JMPA)との意見交換

・JMPA との間で、国内医書電子化に関する委員会を2度行った。電子ブックの
施設向け提供モデルについて、意見交換をした。

③国内医書利用実態調査

・2015年度に実施したアンケート結果を会員ページで公開した。

(3) その他の報告事項

岩井雅史委員 (信大医) が異動のため、9月30日付で退任した。

(4) 今後の課題

①JMPA との国内医書電子化に関する意見交換の継続

6. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A

高知学園短期大学図書館

正会員個人 11名

維持会員 2名 (個人)

退会

正会員個人 14名

維持会員 2名 (団体)

2019年3月31日現在の会員数

正会員 A 101機関

正会員 B 45機関

正会員個人 110名

協力会員 2機関

維持会員 15機関 (団体)

維持会員 5名 (個人)

2) 寄付 (助成金)

株式会社紀伊國屋書店

丸善雄松堂株式会社

3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 29冊 420,500円

インセットテープ 合計 141,500本 140,036円

NLM 複写依頼 4,321件 5,748,900円

KMLA への文献複写提供実績 7件

II. 企画・広報委員会

1. 委員

担当理事 城山 泰彦 (順大)

委員長 黛 崇仁 (東邦大医)

委員 川崎 かおる (岩医大)

会員統計担当ワーキンググループ (WG)

井上 俊子 (神常盤)、滝野 美和子 (田附研)、田中 律子 (滋慶院大)、

徳江 紀子 (国がん)、戸村 裕菜 (東医大)

重複交換担当 WG

戸村 裕菜 (東医大)

要覧担当 WG

曾田 昌弘 (関医大)

ホームページ担当 WG

藤沢 靖子 (杏大医・グループ長)、森田 ゆかり (藤大医)、

鷹野 祐子 (都医学研)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 1月21日

会員統計ウェブフォーム構築検討会議 6月13日

国立国会図書館との協議 1月21日

重複交換担当 WG 検討会議 1月21日

2) 企画・広報委員会

(1) 国立国会図書館への蔵書寄贈システムの構築

総務会とともに国立国会図書館を訪問し、意見交換をおこなった。事業内容を精査し、実施に向けた準備をおこなった。

(2) 広報活動

地区会や会合等で活用いただけるよう、「理事会報告」PowerPoint 資料を作成した。

また JMLA 協会ロゴを入れたクリアファイルを作成した。

(3) JMLA メーリングリスト (ML) の管理・整備

メーリングリスト管理と、不達 mail の対応をおこなった。

(4) 委員会の方向性の確認

傘下 WG の活動が円滑に進むよう、調整・支援することを最優先課題とする。

3) ホームページ担当 WG

(1) ウェブサイト更新体制

ホームページ担当 WG と中央事務局の協働により、遅延なく更新できている。

(2) ウェブサイトの管理・運営

「掲載内容の把握」、「更新依頼の手順」、「更新依頼時に伝えていただきたい情報」を、「会員のページ」に掲載した。「会員のページ」の ID/Password を変更した。

4) 会員統計担当 WG

(1) 第 89 次会員統計

2018 年 12 月 17 日に、完成版をウェブサイトに掲載した。

(2) 提出方法の変更

前回の第 88 次から使用しているウェブフォームを改良し、データ収集に使用した。

(3) 統計項目の追加

医療・健康情報委員会の項目「10.協力」をはじめ、「その他」に多く挙げられた回答項目等を選択肢に追記した。

(4) 未提出館への対応

“会員の義務”であるが、未提出館が出た。

(5) 第 90 次会員統計に向けて

ウェブフォームを改良して運用し、編集方法等の再検討を行う。

5) 重複交換担当 WG

(1) 重複雑誌交換 ML

2018 年 7 月 12 日に会員 ML に対して、重複雑誌交換 ML の案内を配信した。

(2) 第 69 回 (2018 年度) 重複雑誌交換事業の実施

2018 年 7 月 20 日に案内状を送付し、交換期間を 2 回設けた。第 1 回 (2018 年 9 月 25 日～10 月 12 日) と、第 2 回 (2019 年 2 月 12 日～3 月 1 日) で実施。実績報告書と、今後の事業の方向性に関するアンケートを集計して機関誌とウェブサイトに掲載予定。

(3) 第 70 回重複雑誌交換に向けて

アンケートの結果を基にして、実施の際は例年通り進められるよう検討する。

6) 要覧担当 WG

(1) 冊子体の発行

隔年発行のため、2018 年 10 月 22 日に『要覧 2018-2019』を発行した。

(2) 『要覧 2018-2019』変更点のウェブサイト公開

従来通り、冊子体発行以降に変更があった規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当 WG の協働により、速やかに最新版を本会ウェブサイト上に掲載している。(冊子とウェブサイトの掲載内容が異なる場合はウェブサイトを優先)

3. 今後の課題

1) 委員会体制の構築

2) 委員会・WG の作業手順・業務分掌の明文化・マニュアル整備

3) “2016年度～2019年度 重点事業目標”を指針とする事業計画の策定

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子 (個人)

委員長 浅野 泉 (旭医大)

委員 石井 恵 (個人)、伊藤 智輝 (北里白)、大野 圭子 (個人)、工藤 女恵 (個人) [2018年6月から]、菅 修一 (個人)、半澤 智絵 (個人)、百留 悦子 (埼玉医大)、藤村 三枝 (滋医大)

編集協力委員 佐々木 圭 (北大) [2018年5月まで]、池崎 康 (札幌医大) [2018年6月から]、菅野 久美子 (秋大医) [2018年5月まで]、齋藤 香織 (弘大医) [2018年6月から]、相澤 まゆみ (都済生中央)、原 猛 (長野看大) [2018年3月まで]、清水 満里子 (長野看大) [2018年5月まで]、貴村 好隆 (富大医薬) [2018年6月から]、榊原 佐知子 (愛医大)、山下 ユミ (京府医大) [2018年5月まで]、藤原 純子 (個人) [2018年6月から]、田中 孝次 (徳大蔵) [2018年5月まで]、山崎 月子 (島大医) [2018年6月から]、平山 紀子 (久大医) [2018年5月まで]、首東 誠 (九大医) [2018年6月から]

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月 5日

第2回 9月 19日

第3回 12月 18日

第4回 3月 7日

2) 「医学図書館」(年4号)の刊行

定期刊行を維持した。

(1) 「医学図書館」65巻2号 2018.6.20 刊行

(2) 「医学図書館」65巻3号 2018.9.20 刊行

(3) 「医学図書館」65巻4号 2018.12.20 刊行

特集：どうした？ILL/第3回JMLAコア研修

(4) 「医学図書館」66巻1号 2019.3 発行

特集：医療健康情報サービスと児童サービス/診療ガイドライン文献検索ワークショップ

3) 編集体制の改善

(1) 編集委員を充足した。

(2) 定例記事の査読(編集委員相互)の結果連絡を、ワード・エクセル等の校閲機能を利用し効率化を図った。

4) レファレンス事例集100号記念川柳募集

2019年2月末まで募集した。

広報は、「医学図書館」誌と JMLA のウェブサイトへの掲載のほか、編集協力委員から各地区会メーリングリスト等で広報していただいた。

5) 本誌電子化についての検討

バックナンバーのうち、2009-2010年分の PDF を J-STAGE へ登録することを計画し、登録作業について登録代行の委託化について検討した。複数業者から見積もりを取り、今後の作業は事務局に依頼することとした。

IV. 出版委員会

1. 委員

担当理事 水上 則子 (京大医)

委員長 吉新 裕昭 (獨協医大)

委員 原 千延 (国医情)、福武 亨 (愛医大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月9日 2018年度の出版計画について、既刊出版物の正誤表対応について、その他

第2回 10月11日 「図解 PubMed の使い方 第7版」増刷、電子書籍プラットフォームの追加について、電子書籍の発行形態について、その他

第3回 1月25日 2019年度の出版計画について、その他

2) 出版について

(1) 電子書籍の出版について

①プラットフォームについて検討し、KinoDen、PQEBEC について追加契約をおこなった。

②電子形態の一種である epub について検討し、図版や写真が多い場合は扱いづらくなることと、別途フォーム作成費用がかかるため、従来通り pdf で進めていくことにした。

(2) 「図解 PubMed の使い方インターネットで医学文献を探す」

①第7版の増刷をおこなった。

②第8版の発行にむけて検討した。

(3) 「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付」の改訂出版について検討した。

(4) 2018年度に増刷、改訂となっていない書籍について、在庫状況や内容を考慮して今後の増刷・改訂を計画した

(5) 新出版物について検討した。

3. その他の報告事項

1) Maruzen eBook Library 年度末目録掲載を依頼した。

「図解 PubMed の使い方 第7版」「米国国立医学図書館分類法 2016年度版 日本語版」「やってみよう図書館での医療・健康情報サービス 第3版」のタイトル掲載

4. 今後の課題

1) 新出版物の検討

V. 学術情報コンソーシアム委員会

1. 委員

担当理事 富田 麻子 (日医大中)

委員長 田口 宣行 (埼玉大)

委員 角家 永 (慶大医)、關山 悦子 (岩医大)、鷹野 祐子 (都医学研)、
登坂 善四郎 (神奈こ)、宮本 高行 (阪医大)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 6月 8日

第2回 8月 30日

第3回 1月 11日

2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会 (JPLA) 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と 2019 年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉を延べ 18 回、2020 年契約に向けた交渉を 5 回行った。

3) コンソーシアム提案の充実

引き続き病院部会と連携を取り JMLA コンソーシアムの特徴でもある病院提案の獲得を目指した。ACS 提案では値上げ幅の大きな会員館に対して小パッケージへの移行を認めさせ、OUP 提案では既存の購読タイトルに必要なタイトルを自由に追加できるカスタム・コレクションの新規提案を得た。

4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、コンソーシアム説明会を東京と京都で開催した。京都説明会では近畿地区会に協力いただいた。今回から、展示ブースの配置を参加者の興味に応じて事前に決定した。参加者、企業の双方から好評であった。

(1) 東京会場：2018 年 9 月 4 日 (火) 全水道会館

参加者：97 名 (JMLA65 名、JPLA32 名)

参加企業：18 社 (展示 18 社、プレゼンテーション 17 社)

*実行委員 11 名 (JMLA6 名、JPLA5 名) (参加者数に含む)

(2) 京都会場：2017 年 9 月 13 日 (木) 京都テルサ

参加者：42 名 (JMLA26 名、JPLA16 名)

参加企業：18 社 (展示 18 社、プレゼンテーション 18 社)

*実行委員 7 名 (JMLA4 名、JPLA3 名) (参加者数に含む)

5) 雑誌、電子リソースの契約等に関することについての活動

コンソーシアム提案から外れた Springer Nature と意見交換の場を設けた。今後も継続していく。コンソーシアムにかかわらず、会員に有用であると思われる情報を

提供するように心がけた。

3. その他の報告事項

- 1) コンソーシアム説明会の参加受付をオンライン方式に改めた。
- 2) コンソーシアム説明会に関するアンケートを実施した。
- 3) コンソーシアム提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に行った。
- 4) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

4. 今後の課題

- 1) 海外出版社に対して、サイト定義や Tier 基準を日本の実情に即したものとなるように促していく。
- 2) コンソーシアムの今後の在り方について検討していく。

VI. 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 加藤 砂織 (東女医大)

委員長 三谷 三恵子 (慶大医)

副委員長 西村 志保 (日医大中)

委員 大瀬戸 貴己 (奈医大)、竹田 深佳 (岐大医)、大屋 玲奈 (獨協医大)、
菊地 元子 (国病文献)

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ (東海大伊)

委員 岩間 未乃里 (北里白)、関口 祥子 (東歯大)

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 白土 裕子 (医中誌)

委員 工藤 千絵 (帝京大医)、川村 路代 (北大)

1) 委員会の開催

第1回 7月12日

第2回 10月10日

第3回 12月21日

第4回 2月20日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第1回 7月2日 (電子メールによる書面会議)

第2回 7月19日

第3回 10月10日 (一部教育・研究委員会との合同会議)

第4回 1月17日

第5回 3月20日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第1回 5月7日

- 第2回 7月12日（教育・研究委員会との合同会議）
- 第3回 9月28日（電子メールによる書面会議）
- 第4回 10月31日（電子メールによる書面会議）
- 第5回 11月14日
- 第6回 2月20日（一部教育・研究委員会との合同会議）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 第3回 JMLA コア研修開催

日程：2018年8月23日（木）～24日（金）

会場：東邦大学習志野メディアセンターマルチメディアスタジオ

受講者数：64名（部分参加1名含む：JMLA 46名、非会員18名（公共3名））

2) 第3回 JMLA 学術集会開催

日程：2018年12月7日（金）

会場：TKP 渋谷カンファレンスセンター

午前：研究発表7題

午後：CE コース 文献検索演習中級

参加者数：

研究発表44名（JMLA 41名、非会員3名）

CE コース42名（JMLA 40名、非会員2名）

3) 第20回図書館総合展フォーラム（JMLA/JPLA 共催）

日程：2018年10月31日

会場：パシフィコ横浜 第3会場（アネックスホール203）

テーマ：「図書館AIの最先端-AIの活用でリサーチが変わる」

参加者数：183名（JMLA 29名、JPLA 23名、その他131名）

4) 助成募集

(1) 研究助成

2019年度の募集をおこなった。応募はなかった。

(2) 海外研修助成

MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP)

派遣者公募を含める形で2019年度の募集をおこなった。応募はなかった。

5) JMLA-CE 登録制度の周知と実施

2018年度は13件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CEとして登録した。一覧を本会ウェブサイト公開している。

6) E-ラーニングの検討

基本方針や、コンテンツについて検討した。まずはコンテンツを作成することから始めるのがよいこと、文献検索講習の座学部分を対象とすることとした。文献検索演習中級 PubMed の講習会を撮影し、サンプル動画を作成、評価を行った。

3. その他の報告事項

1) JMLA 学術集会実施マニュアルを作成した。

2) 学術集会ワーキンググループメンバー募集

1名増員し3名体制とした。ワーキンググループメンバー1名退任後、2名の募集をおこなった。結果2名の応募があり決定した。

- 3) I-VIP を含め海外助成募集についてウェブサイトにて周知した。
- 4) 第3回 JMLA 学術集会の文献検索演習中級 2018 において演習を効果的なものにするため、基本的な操作方法の復習資料を事前に提示するとともに、中級演習問題の一部を事前課題として取り組んでもらった。また、PubMed と医中誌 Web の講師間連携をとり、演習問題を一部共通化した。
- 5) JMLA 文献検索講習会ガイドラインをウェブサイトにて一般公開した。
ガイドラインは講師向けの参考資料であることがわかるように公開した。

4. 今後の課題

- 1) E-ラーニングの公開に向けて継続検討

VII. 医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（東邦大医）

委員長 岡田 光世（東邦大医）

委員 赤石 知香（青森保健大）、西 さやか（東医大）、野中 沙矢香（杏大医）、
医療・健康情報ワーキンググループ

グループ長 渡邊 基史（個人）

委員 荒木 亜紀子、中島 ゆかり（個人）、藤井 美華子（個人）、舟田 彰
（個人）、松田 公利

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 8月10日 聖路加国際大学

第2回 1月31日 聖路加国際大学

医療・健康情報ワーキンググループ会議

第1回 9月25日 JMLA 中央事務局

2) 研修会の企画と実施

(1) 第2回医療・健康情報サービス研修会フォローアップ研修の開催

- ・2019年2月26日(火)、大阪市立中央図書館にて開催した。
- ・委員会からは西委員、WG からは、渡邊 WG 長、荒木委員、舟田委員、松田委員が出席。
- ・参加者は21名（会員5名、非会員16名）だった。

3) 講師派遣

(1) 平成30年度岐阜県図書館・岐阜大学図書館研修会

- ・岐阜県図書館・岐阜大学図書館主催の「平成30年度岐阜県図書館・岐阜大学図書館研修会」に講師派遣依頼があり、愛知医科大学の市川氏、岐阜県立多治見病

院の原氏が講師を務めた。

- ・日程は2018年9月14日(金)、会場は岐阜大学図書館で開催された。

(2) 埼玉県立久喜図書館「健康・医療基礎研修会」

- ・埼玉県立久喜図書館主催の「健康・医療基礎研修会」に講師派遣依頼があり、委員会メンバー、渡邊 WG 長、愛知医科大学の市川氏が講師を務めることとなった。
- ・日程、会場、講師は次のとおりである。

一般研修 2019年1月25日(金) 埼玉会館 市川

専門研修(第1-2回) 2019年2月4日(月) 久喜図書館 野中、渡邊

専門研修(第3-4回) 2019年2月18日(月) 久喜図書館 岡田、西

4) 委員会事業の見直し

- ・これまで公共図書館向けの医療・健康情報サービスに関する研修を中心に行っていた事業について、検討した。検討には、総務会も加わり、JMLA として行う事業の位置付けも確認しながら進めた。
- ・患者図書室の運営、業務、サービスは、機関ごとに様々である。そこで JMLA として、患者図書室の標準化を定め、会員館患者図書室を評価することで、会員館患者図書室の発展に寄与する。また会員館患者図書室の質が向上すれば、地域公共図書館の医療・健康情報サービスとの連携も強化され、ひいては患者・一般市民への医療・健康情報サービスの国内ネットワークの構築につながることを考えられる。このようなビジョンに基づき、今後、委員会事業を計画していくこととなった。
- ・公共図書館における研修への講師派遣については、その都度検討し、JMLA として引き受けた方がよいものについてのみ、対応する。

3. その他の報告事項

1) 研修会参加者向けメーリングリストの中止

- ・活発な情報交換は行われず、現状のままでは見込みもないことから、3月31日をもって閉鎖した。

4. 今後の課題

- 1) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準を作成する。そのうえで評価シートを作成する。

VIII. 認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 北川 正路 (慈恵大)

委員長 阿部 潤也 (東歯大)

委員 小林 晴子 (愛医大)、中島 裕美子 (埼玉医大)、永田 治樹 (立教大)、
山崎 むつみ (静岡がん)、山下 ユミ (個人)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催
 - 第1回 4月16日
 - 第2回 8月31日
 - 第3回 12月3日
 - 第4回 2月18日
 - 2) 申請募集と認定審査
 - (1) 第30回募集(2018年7月受付、9月認定)
 - 審査件数: 10
 - 認定件数: 10(基礎9、中級1[新規1]、上級0[新規0])
 - (2) 第31回募集(2019年1月受付、3月認定)
 - 審査件数: 15
 - 認定件数: 15(基礎12、中級1[新規1]、上級2[新規0])
 - (3) 資格取得者の現存数
 - 第31回募集まで463名
 - (基礎410名、中級17名、上級36名)
 - 3) 申請促進のための情報発信
 - 申請書類やサイト掲載の説明で分かりにくいと思われる部分、説明が不足していると思われる部分を変更した。
 - 申請を呼びかけるために、関連雑誌や関連団体のメーリングリストに案内を掲載した。
 - 4) プロモーショングッズ
 - イメージロゴを活用したプロモーショングッズとしてバッジを配った。
3. 今後の課題
- 1) 各種イベントのポイント対象可否についての事前確認への対応
 - 2) 司書資格なしの方への対応
 - 3) 公共図書館員向け認定資格対応(本認定資格制度の対象範囲の再考)
 - 4) 申請内容の調査(動向調査、アンケート調査、関連活動の調査)

Ⅸ. 受託事業委員会

1. 委員
 - 担当理事 河合 富士美(聖路加)
 - 委員長 河合 富士美(聖路加)
 - 委員 総務会兼務
2. 事業計画と年間目標の達成状況
 - 1) 委員会の開催
 - (1) 委員会としては会議を持たず、総務会で全体を統括した。
 - (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。

- 2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

※詳細は事業別報告を参照

- 3) 医学中央雑誌刊行会受託事業

- 1) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版データベース作成を継続した。

※詳細は事業別報告を参照

3. 今後の課題

- 1) 米国国立医学図書館分類法 (NLMC) 日本語版データベース作成の完成 (3年目)
2) 新規受託事業の検討

4. 事業別報告

- 1) 診療ガイドラインワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加) [2018年7月～]、諏訪部 直子 (杏大医) [～2018年6月]

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委員 石井 恵 (個人)、石川 ありさ (岩医大) [2019年1月～]、石原 千尋 (名大医)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、河合 富士美 (聖路加)、川崎 かおる (岩医大)、工藤 女恵 (個人)、小嶋智美 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、佐藤 正恵 (個人)、高崎 千晶 (個人)、寺澤 裕子 (個人)、成田 ナツキ (個人)、堀米 拓哉 (日大歯)、森正 智子 (昭和大)、山口 直比古 (個人)、山崎 むつみ (静岡がん)、吉原 理恵 (個人)、渡辺 由美 (日医大中)、愛知医科大学医学情報センター (代表: 小林 晴子)、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館 (代表: 山下 富子)、杏林大学医学図書館 (代表: 藤沢 靖子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表: 三谷 三恵子)、滋賀医科大学附属図書館 (代表: 田村 峻一)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表: 後閑 壮登)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表: 阿部 信一)、東京女子医科大学図書館 (代表: 三浦 裕子)、東邦大学医学メディアセンター (代表: 大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表: 鈴木 孝明) 【下線=リーダー】

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

リーダー会 第1回 6月14日 (診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ会議と共催)

第2回 2月8日 (診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ会議と共催)

ワーキンググループ会議 第1回 8月31日

②受託状況

24 学会・研究班より 35 ガイドラインを新規に受託した。(詳細は別紙参照)

③研修会の開催

診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループとリーダーが協力し研修会を開催した。(詳細はワークショップワーキンググループ報告を参照)

④委員会関係文書の整備

受託件数が多く、保留となった。

⑤診療ガイドライン、系統的レビュー作成に関する連絡会への参加
相手先の事情により活動休止となった。

(3) 今後の課題

①リーダーの育成

②委員会関係文書の整備

③BunKan の改良

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委員 藤沢 靖子 (杏大医) [~2018 年 12 月]、成田 ナツキ (個人) [~2018 年 12 月]、森正 智子 (昭和大) [~2018 年 12 月]、牛澤 典子 (東邦大医) [2019 年 1 月~]、川崎 かおる (岩医大) [2019 年 1 月~]、佐藤 友里恵 (慶大医) [2019 年 1 月~]

河合 富士美 (聖路加)、小嶋 智美 (個人)、鈴木 孝明 (奈医大)、諏訪部 直子 (個人)、山口 直比古 (個人)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第 1 回 6 月 14 日 (診療ガイドラインワーキンググループリーダー会と共催)

第 2 回 2 月 8 日 (診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ会議と共催)

②ワークショップの開催

8 月 30 日~31 日に聖路加国際大学にて開催した。参加者は会員 22 名。

(3) 今後の課題

①運営マニュアルの作成

②シラバスの検討

3) 米国医学図書館分類法 (NLMC) データベース作成ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)、諏訪部 直子 (杏大医) [~2018 年 6 月]

グループ長 橋本 郷史 (東邦大医)

委員 鷹野 祐子 (都医学研)、寺升 夕希 (滋医大)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第 1 回 7 月 25 日

第 2 回 11 月 21 日

第3回 12月 6日

②データベース作成と検証

・仕様書を確定して3社と見積もり合わせを行い、株式会社インフォレスタを選定した。

・サーバの設置先をいったんUMINとしたが、外部サーバに変更した。

・3月に納品され、検証を進めている。

(3) 今後の課題

①データベースサービスの利用ログ分析

②データベースサービスのアンケート調査

③上述の①②に基づくマイナー改修の検討

2018年度受託事業 診療ガイドライン一覧

ガイドライン名		学会等
GL1801	HTLV-1関連脊髄症（HAM）診療ガイドライン	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業研究班、日本神経学会
GL1802	筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン	日本神経学会
GL1803	膀胱癌診療ガイドライン	日本泌尿器科学会
GL1804	顎変形症治療の手引き	日本顎変形症学会
GL1805	基底細胞癌診療ガイドライン(皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版)	日本皮膚科学会
GL1806	転移性肝癌ガイドライン	日本肝胆膵外科学会
GL1807	関節リウマチ診療ガイドライン	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業研究班
GL1808	小児IgA腎症診療ガイドライン	日本小児腎臓病学会
GL1809	重症筋無力症/ランバート・イートン筋無力症候群診療ガイドライン	日本神経学会
GL1810	卵巣がん治療ガイドライン	日本婦人科腫瘍学会
GL1811	唾・消化管神経内分泌腫瘍診療ガイドライン	日本神経内分泌腫瘍研究会
GL1812	弁膜疾患治療に関するガイドライン	日本循環器学会
GL1813	ギランバレー症候群/フィッシャー症候群診療ガイドライン	日本神経学会
GL1814	顔面外傷診療ガイドライン:眼窩底骨折	日本頭蓋顎顔面外科学会(眼窩底骨折班)
GL1815	顔面外傷診療ガイドライン:上顎骨骨折	日本頭蓋顎顔面外科学会(上顎骨骨折班)
GL1816	顔面外傷診療ガイドライン:頬骨骨折	日本頭蓋顎顔面外科学会(頬骨骨折班)
GL1817	顔面外傷診療ガイドライン:鼻篩骨骨折	日本頭蓋顎顔面外科学会(鼻篩骨骨折班)
GL1818	顔面外傷診療ガイドライン:下顎骨骨折	日本頭蓋顎顔面外科学会(下顎骨骨折班)
GL1819	PSE(脾動脈塞栓術)ガイドライン	日本IVR学会
GL1820	高齢者がん医療Q&A	日本がんサポーターズケア学会
GL1821	IgA腎症診療ガイドライン	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業研究班、日本腎臓学会
GL1822	大腸ポリープガイドライン	日本消化器病学会
GL1823	NAFLD/NASHガイドライン	日本消化器病学会
GL1824	肝硬変ガイドライン	日本消化器病学会
GL1825	消化性潰瘍ガイドライン	日本消化器病学会
GL1826	リラインとリベースのガイドライン	日本補綴歯科学会
GL1827	乳癌診療ガイドライン	日本乳癌学会
GL1828	陰茎癌診療ガイドライン	日本泌尿器科学会
GL1829	肺癌ガイドライン	日本肺癌学会
GL1830	アフアレシス療法ガイドライン	日本アフアレシス学会
GL1831	胎児心エコー検査ガイドライン	日本胎児心臓病学会
GL1832	プリオン病感染予防ガイドライン	厚生労働省難治性疾患等政策研究事業研究班
GL1833	食道癌に対するESD/EMRガイドライン	日本消化器内視鏡学会
GL1834	内視鏡診療における鎮静に関するガイドライン	日本消化器内視鏡学会
GL1835	小児甲状腺癌診断治療ガイドライン	厚生労働省科学研究費補助金

X. 協会賞・奨励賞選考委員会

1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵大）

委員長 石井 保志（個人）

委員 石立 裕子（個人）、泉 峰子（科学院）、首東 誠（九大医）、森正 智子（昭和）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 8月27日

第2回 2月6日

2) 委員の欠員補充

新委員2名に就任いただいた。（任期：2018年10月1日～2020年5月31日）

3) 2018年度協会賞・奨励賞の選考

第2回選考委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

3. 今後の課題

1) 選考に関わるガイドラインの整備

2) 協会賞・奨励賞 HP の整備および充実(英文による発信等)

XI. 国際交流委員会

1. 委員

担当理事 諏訪部 直子（個人）

委員長 佐藤 晋巨（聖路加）

委員 未定

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催 無し

2) 韓国医学図書館協会（以下、KMLA）との連携

(1) KMLA との二者協定に基づく連携事業の継続

①2018年度第89回JMLA総会へ来賓2名を招聘した。

総会前日(5月27日)に、総務会メンバー及び北川理事、富田理事、事務局長、事務局主任と中央事務局にてビジネスミーティングを行った。

総会において Ms. Young Joo Kim(延世大学医学部江南 SEVERANCE 病院図書室) が来賓挨拶をした。

分科会において Ms. Na Jin Kim（韓国カトリック大学医学図書館）が”CASE: Research Support of Medical Librarian – Focusing on EBM Information Services.”を発表した。

北里大学白金図書館と聖路加国際大学学術情報センター図書館を見学した。

②2018年度 KMLA 秋季学術大会へ理事と会員の2名を派遣した。

大会日程：2018年10月17日(水)～20日(土)

開催地：ヨンジョン・スカイ・リゾート（仁川）

派遣者：尾崎聖太郎（麻布大）は開会式にて挨拶した。

阿部潤也（東歯大）は『日本医学図書館協会認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」現状と課題』を発表した。

③2019年度第90回 JMLA 総会へ KMLA 会員2名の招聘の準備を開始した。

3) 米国医学図書館協会（以下、MLA）との連携

(1) MLA との二者協定に基づく連携事業の継続

①MLA 年次大会に会員1名を派遣した。

派遣者 伊藤智輝（北里白）

派遣先 MLA'19（ジョージア州アトランタ）

派遣の様子は「医学図書館」65巻3号（2018）で報告した。

②MLA 年次大会 MLA'20 への国際交流派遣者の公募を行った。

応募者はいなかった。

4) 台湾医学図書館学会（以下、TMLA）との連携

交流の実現に向けて TMLA と意見交換を行った。

5) 英語での国際交流活動の情報発信

(1) JMLA 関連名称の英語表記の改訂を行った。

6) 海外からの医学図書館見学希望者への対応

今年度は見学希望者がいなかった。

3. 今後の課題

1) 委員が欠員し委員長と担当理事のみによる活動が続き、定例の業務をこなすのみで新しいことに着手することができない状況を変える必要がある。

X II . 組織・制度委員会

1. 委員

担当理事 尾崎 聖太郎（麻布大）

委員長 新谷 知之（東海大伊）

委員 加藤 恵子（国がん）、土佐 智義（個人）、森戸 重男（獨協医大）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 7月13日

第2回 11月20日

第3回 1月28日

第4回 3月19日

2) 細則、規程、内規等、本会諸規則の制定及び改定

以下の規程類の制定及び改定作業を行った。(現在作業中のものを含む)

(1) 制定作業

- ①特定非営利活動法人日本医学図書館協会／日本薬学図書館協議会共催事業に関する覚書
- ②著作権に関する内規

(2) 改定作業（軽微な修正は除く）

- ①役員の選任方法に関する細則
- ②協会賞・奨励賞推薦書
- ③日本医学図書館協会所有電子資料利用規程
- ④受託事業委員会内規
- ⑤謝金に関する内規
- ⑥特定非営利活動法人日本医学図書館協会／日本薬学図書館協議会事業協力に関する申合せ
- ⑦著作物転載申請書
- ⑧本会会員館データ借用申請書
- ⑨各種申請書の様式統一

3) 本会の組織・制度に関すること

- (1) 本会代表者2名体制の検討
- (2) 本会組織図の検討

3. その他の報告事項

改定された規程類を、本会ホームページへ掲載した。

4. 今後の課題

- 1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。
- 2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。
- 3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。
- 4) 定款の改定に向けた組織・制度の見直しを行う。

XIII. 部会 病院部会

1. 委員

- 部会長 加藤 恵子 (国がん)
- 幹事 泉 峰子 (科学院)、春日井 泉江 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、高崎 千晶 (個人)、成田 ナツキ (個人)、吉田 言 (NCNP)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 部会の開催

第1回 5月28日（日本教育会館）

内容：病院部会新執行体制について、2018年度病院見学先について、研修会の開催について

第2回 3月1日（東邦大学医学メディアセンター 大橋病院）

内容：来年度活動計画について マニュアル作成について 2020年度見学会について

2) 定例会の開催

第1回 5月29日（火） JMLA 分科会 休憩時間中に開催

参加：会員13人

3) 見学会の実施

2019年3月1日午後 見学先：東邦大学医学メディアセンター 大橋病院

参加：会員16人 非会員5人

4) 研修会の実施

(1) 2018年12月15日午後 国立がん研究センター第1会議室

(2) 内容：「病院図書室と公共図書館の連携」「検索エンジン使いこなしと論文評価の動向」「PubMed 最新 MeSH」「専門職能力開発プログラム」研修プログラム「保健・医療分野の情報サービス」に基づく（JMLA-CE コース認定 2018-010）。

講師：山口直比古氏（個人）、佐藤正恵氏（個人）、小林飛鳥氏（個人）

目的：公共図書館との連携について事例を知る、検索について専門的な知識を深める。

参加：会員22人 非会員5人

5) メーリングリストによる情報交換